

現在の6年制薬学教育においては、「薬剤師として求められる基本的な資質」を次のように定義している。「豊かな人間性と医療人としての高い使命感を有し、生命の尊さを深く認識し、生涯にわたって薬の専門家としての責任を持ち、人の命と健康な生活を守ることを通して社会に貢献する」(薬学教育モデル・コアカリキュラム, 平成25年度改訂版)。そして、6年卒業時に必要とされる資質として、①薬剤師としての心構え、②患者・生活者本位の視点、③コミュニケーション能力、④チーム医療への参画、⑤基礎的な科学力、⑥薬物療法における実践的能力、⑦地域の保健・医療における実践的能力、⑧研究能力、⑨自己研鑽、⑩教育能力の10項目をあげている。

上記の「①薬剤師としての心構え」とは、医療の担い手として、豊かな人間性と、生命の尊厳についての深い認識をもち、薬剤師の義務および法令を遵守するとともに、人の命と健康な生活を守る使命感、責任感および倫理観を有することであり、6年間の全学年を通してヒューマニズムについて学ぶことが求められている。さらに、「④チーム医療への参画」では、医療機関や地域における医療チームへの積極的な参加が求められている。チーム医療とは、医療に従事する多種多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供することである。従って、チーム医療に参画するためには、薬剤師としての高い専門性を有していなければならない。

『臨床薬学テキストシリーズ』では、薬学教育モデル・コアカリキュラムに準じて各種疾患に対する薬物治療が解説される。本書は、全巻に共通して基礎となる薬学と倫理、医薬品開発とレギュラトリーサイエンス、臨床研究、医療統計学を一冊に配した。薬剤師として知っておかなければならない医薬品の開発、承認、製造販売後の安全対策という一連のプロセスが製薬企業と規制当局の観点も交えて解説されている。また、薬の評価に必要な不可欠な人を対象とする臨床研究について、倫理性と科学性の両面からそのあり方と試験デザインを学ぶことができる。さらに、試験結果の解釈に必要な医療統計学は、ともすれば数式に翻弄されて難しいとされるが、本書では数学的な詳細には立ち入らずに、事例を用いてわかりやすく医療統計学の基本的な考え方が説明されている。

薬剤師を目指して学ぶ6年間を通して、薬の専門家に求められるエッセンシャルな知識の習得と確認に、本書が活用されることを願うものである。

2017年3月

安原真人